

## 授業改善書

科目名	メディア文化論
担当者	埜幸枝

### 授業の概要

現代社会において、メディアの存在は私たちをとりまく文化の組成に大きく影響している。そのような状況のなかで、メディアの役割を理解することは、私たちが生活している社会環境のあり様や、私たちが日常的に実践しているコミュニケーションの意味をいま一度考えなおしてみるためにも重要な意義をもつ。とくに、普段、私たちがあたりまえのように接しているメディアがときに人々を統制したり、抑圧したりするという点については、留意が必要である。この授業では、身近なトピック(写真、映画、ドラマ、テレビ番組、ゲームなど)の分析をつうじて、メディアに関連する概念やキーワードを習得するとともに、それらの知識を応用しながら私たちをとりまく文化とメディアの関係性を捉えなおすための講義を行なう。

### 授業の問題点

本科目における学生の受講態度は良好で、講義を聞く姿勢や、グループディスカッションへの参加、授業内課題およびコメントシートへの記述など、ほとんどの学生にいずれも積極的な取り組みが認められた。

しかし、授業アンケートによれば、「授業外学習をしたか」「質問や発言をしたか」という項目のポイントがやや低い結果となっており(3.73、4.14)、今後は授業への学習態度の学生自身による評価を高めていく必要がある。前者の点については、事前にテキストを読むなどの予習指示を出していたものの、その実施状況は学生によってばらつきがあったように思われる。また後者の点については、ディスカッション時にはグループごとに盛んな議論が行われていたものの、各グループの意見をクラス全体でシェアする段階では発言する学生に偏りがあったように思われる。

授業方法については、「資料の見やすさ」に関する項目のポイントがやや低い結果となっており(4.36)、学生の興味や理解の促進を重視したパワーポイントによる講義形式が、他方で、ノートを取るという観点において困難をとまなうものであった可能性もある。

### 授業改善の課題・方策

「授業外学習(予習・復習)」については、予習指示をより明確に出す(指定箇所が来週の授業といかに関連するか等)とともに、テーマごとに定期的な復習の指示を出す。また、授業外課題についても検討する。

「質問や発言」については、グループディスカッションの形式だけでなく、個人ごとに発言できる機会を確保する。また、グループディスカッションの意見をクラスでシェアする際には、毎回同じ学生のみが発言することのないように、こちらが発言者を指示する機会も設ける。

「資料の見やすさ」については、パワーポイントのスライド数を減らし、できるだけ速度を落として授業を進める。また、授業の途中でノートの書き取り等に支障がないか確認する機会を設ける。

### その他